

## 本当の私

群馬県 川場村立川場中学校 三年  
津久井 夢華

「この世にあるものは、誰一人、なに一つ、同じものではなく、だからこそすばらしい。」かの有名な詩人、金子みすゞはこう謳っている。

みんなが持っているすばらしいもの、一体なんだろう。私は、自分らしさを表に出すことができませんでした。周りからも「あなたは真面目な子だから」「夢華に頼めば間違いない」と言われ、いわゆる「良い子」、それが私でした。周りからの声や期待に何とか応えよう、失望されたくない、自分の考えよりも周りの考えに合わせなければ、自分の気持ちを押しこらし我慢して毎日過ごしていました。本当の気持ちとは裏腹に。

私らしさ、本当の自分を出せなかった・・・というよりも隠していたのだと思います。そのような中の休校。学校に登校できない日々。友達と会えない毎日。このまま時間だけが過ぎていってしまう。心の中はもやもやでいっぱいでした。

私の住む川場村は人口三千人ほどの小さな村です。同級生とは幼いころから一緒に過ごしてきました。クラス替えはありません。九年間という同じ時を過ごした仲間との時間もあと僅かです。「このままでいいのだろうか」「私をもっとわかってほしい」そう思ったのです。休校が明けたら自分を出そう。そう決めました。

真面目だからと大人しくしているだけの私ではなく、もつと自分の考えをはっきり伝えられる、本当の私になりたいと思ったのです。一番のきっかけは部活動です。今までは先生や先輩、同級生に言われた通りにしか動けなかった私。でもキャプテンになったことで全体を見て、自分の考えを伝えることが大切だと気づきました。また部員の意見をしっかりと聞き入れることを心掛けるようになりました。

みんなが持っていて、決して同じものはないもの。それは、「個性」だと思っています。私たち人間には一人ひとり「個性」があります。「個性」のない人なんて絶対にいません。友達と一緒にワイワイするのが好きな人もいれば、一人で静かに読書するのが好きな人もいます。それぞれ好きなことも違えば苦手なことも違います。

それらはその人の「個性」であって、優劣をつけるものではないと私は思うのです。日本人は外国の人から見ると「集団」で行動することに執着しすぎている、と感じるそうです。よくとらえれば、協調性があるが本当の自分を出すことが怖いからと周りに合わせ、その安心感に依存してしまうのです。人は自分にならないものを認めたくなく、否定し、トラブルやいじめに繋がってしまうのです。そのため、自分の「個性」を出すことができなくなってしまうのです。

「人と違って目立つ能力を褒めて伸ばす海外」に対し、「人より目立ちすぎると叩かれる日本」、せっかく一人ひとり違ったすばらしい「個性」をもっているにも関わらず、本当の自分を出すことができない私たち。本当にこのままでよいのでしょうか。私はそうは思いません。相手と自分の長所や短所を理解し素直に受け入れる。その人の「個性」がより活かされ、みんなが生き生きと過ごすことができる世界が必要なのだと思うのです。お互いの「個性」を認め合い、尊重することが必要なのだと思うのです。

「この世にあるものは、誰一人、なに一つ、同じものではなく、だからこそすばらしい。」現代社会では「多様性」が重視されてきています。性別、文化、言語、肌の色など関係なく「個性」そのものを認め合い、活かしていくことが必要です。この世に同じ人なんて存在しません。だからこそ人は尊くすばらしいのです。そんな世界を目指していきたい。